

需給調整・経営安定対策に関する資料

平成 1 8 年 5 月 2 6 日

農 林 水 産 省

目 次

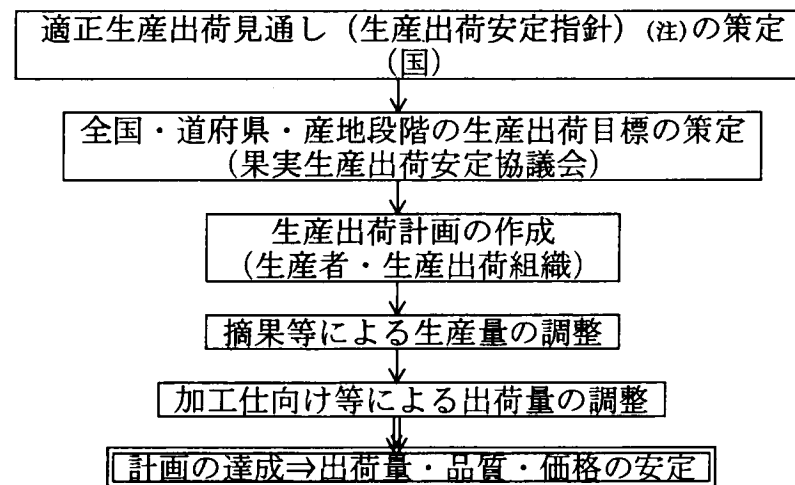
1	需給調整・経営安定対策の概要	1
2	需給調整対策の現状	3
3	経営安定対策の現状	4
4	価格動向	6
5	18年産生育状況	9

1 需給調整・経営安定対策の概要

(1) 需給調整対策

- 国は、毎年、需給動向を踏まえ、食料・農業・農村政策審議会の意見を聴いて、適正生産出荷見通しを示すこととしている。
- その際、大幅な生産増加が見込まれる場合には、適正生産出荷見通しに代えて、うんしゅうみかんについては、果樹農業振興特別措置法に基づき、農林水産大臣が生産出荷安定指針（りんごについては生産出荷指導指針）を策定することとしている。
- 見通し（指針）の策定を受け、生産者団体等からなる全国、道府県、産地の各段階の果実生産出荷安定協議会等は、道府県別、産地別、生産者・生産出荷組織別の生産出荷目標を策定することとしている。
- 一方、生産者・生産出荷組織は、その目標に即し予定される生産出荷量及びそのための調整方法を盛り込んだ生産出荷計画を作成することとしている。
- 指針が策定された場合には、生産量の調整効果が高い全摘果等の特別摘果により、生産量の調整に最優先に取り組み、需給調整を強化することとしている。

○ 需給調整対策の流れ



（注）生産出荷安定指針は、予想生産量が全国の適正生産量の原則として10%以上上回る場合に策定。

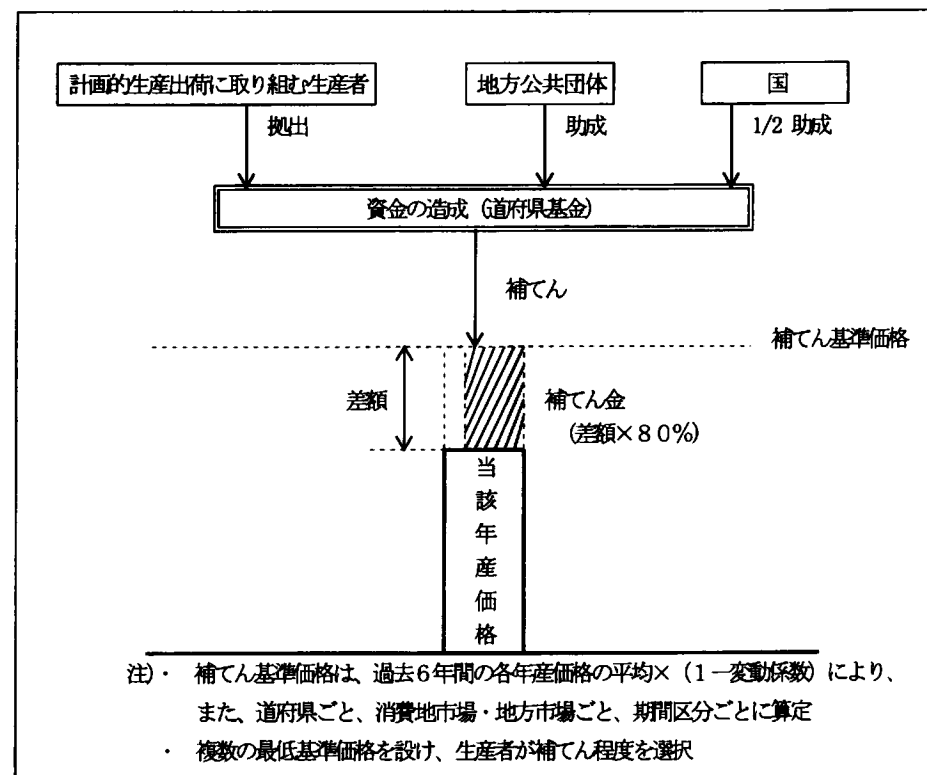
○ うんしゅうみかんの特別摘果の内容

改植・高接	うんしゅうみかんからうんしゅうみかんの優良品種その他果実への改植又は高接
全摘果	園地、樹又は半樹ごとに全く結実させないようにさせるためのせん定又は摘果
間伐・大枝切り	園地ごとに一定面積以上の樹を伐採する間伐又は樹の主枝を一定割合以上切除する大枝切り

(2) 経営安定対策

- 需給調整対策の取組が行われた場合においてもなお価格が大きく変動した時に、育成すべき果樹生産者の経営安定を図るため、平成13年度から18年度までを計画期間として経営安定対策を実施している。
- 本対策に必要な資金は、生産者の拠出と地方公共団体及び国の助成金等により造成している。
- 本対策においては、道府県平均で当該年産価格が補てん基準価格を下回った場合には、その差額の8割を補てんすることとしている。この場合、産地・生産者が計画的生産出荷を的確に実施していることが交付の条件となっている。

○ 経営安定対策の仕組み



2 需給調整対策の現状

(1) 16年産

- うんしゅうみかん及びりんごについては、大幅な生産増加が見込まれないことから、それぞれ適正生産出荷見通しを策定した。
- うんしゅうみかんは、春先の安定した天候により順調な生育で推移し、計画的な生産が見込まれていたが、相次ぐ台風の影響による落果や傷果の発生により、生産量は、適正生産量111万トンを下回る106万トン（適正生産量の96%）となった。
- りんごは、主産県での春先の凍霜害によるサビ果の発生が見られたものの、その後好天に恵まれ、計画的な生産が見込まれていたが、8月以降の相次ぐ台風の影響により落果や傷果の発生により、生産量は、適正生産量87万トンを下回る75万4千トン（適正生産量の87%）となった。

(2) 17年産

- うんしゅうみかん及びりんごについては、大幅な生産増加が見込まれないことから、それぞれ適正生産出荷見通しを策定した。
- うんしゅうみかんは、生産者団体を中心として、生産出荷目標等に即した高品質果実の生産出荷等、計画的な生産出荷に取り組んだことにより、生産量は、113万トン（適正生産量の102%）と計画に近い水準となった。
- りんごは、豪雪による枝折れや消雪の遅れから生育が遅れたこと、高品質果実の生産のための仕上げ摘果や樹上摘果が適切に行われたことにより、生産量は、適正生産量87万トンを下回る81万9千トン（適正生産量の94%）となった。

- 平成16年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
生産出荷実績(a)	106 万t	93.7 万t	75.4万t	66.7万t
適正生産出荷量(b)	111 万t	98.5 万t	87 万t	78 万t
比率(a/b×100)	96 %	95 %	87 %	86 %

資料：平成16年産果樹生産出荷統計等

- 平成17年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
生産出荷実績(a)	113 万t	101 万t	81.9万t	72.4万t
適正生産出荷量(b)	111 万t	98.5万t	87 万t	78 万t
比率(a/b×100)	102 %	102 %	94 %	93 %

資料：平成17年産みかんの収穫量及び出荷量 等

3 経営安定対策の現状

(1) 13年産～16年産

○ うんしゅうみかんについては、制度創設以来、価格の低迷等により毎年補てん金の交付が行われており、累計で188億円の交付が行われている。なお、補てん金の交付額は減少傾向にある。

○ りんごについては、15年産以降価格が安定的に推移しており、補てん金は交付されておらず、累計で72億円の交付が行われている。

○ 経営安定対策の補てん金交付額の推移

		うんしゅうみかん	りんご	合 計
13年産	補てん金交付額（億円）	118	33	151
	対策加入県	19	5	24
	補てん対象県	19	2	21
14年産	補てん金交付額（億円）	34	39	73
	対策加入県	19	5	24
	補てん対象県	12	5	17
15年産	補てん金交付額（億円）	36	—	36
	対策加入県	18	6	24
	補てん対象県	12	—	12
16年産	補てん金交付額（億円）	0.3	—	0.3
	対策加入県	18	6	24
	補てん対象県	2	—	2
累計	補てん金交付額（億円）	188	72	260

資料：農林水産省果樹花き課調べ

(2) 17年産

うんしゅうみかんは、各県が計画出荷に努めたものの、6月以降の高温・少雨傾向等により極早生みかんが小玉傾向になったこと、生育が遅れたなし、ぶどう等の夏果実と競合したこと等から、卸売価格が低い水準で推移し、17県で補てんが行われる見込みである。

また、りんごについては、豪雪による枝折れや消雪の遅れに起因する生育遅れにより小玉傾向になったものの、計画出荷が概ね順調に行われたこと等から、卸売価格は比較的安定して推移し、北海道を除く県で補てんが行われない見込みである。

※対象出荷期間

みかん：3月まで

りんご：県により1月まで～5月まで

○ 平成17年産うんしゅうみかん及びりんごの経営安定対策の補てん金交付額(最大見込額：契約数量ベース)

		17年産 価 格 (3月末)	補 て ん 基準価格	交 付 額 (最大見込額) (注3)	対象者1人当 たり交付額 (最大見込額) (注3)	備 考
み か ん	全 国	円/kg	円/kg	億円	千円	
	静 岡	173	185	8	141	対策加入県 17県 補てん対象県 17県
	和歌山	149	160	8	126	
	広 島	110	145	8	191	
	愛 媛	155	170	5	69	
	福 岡	130	140	1	106	
	佐 賀	127	140	4	122	
	長 崎	147	150	1	26	
	熊 本	124	150	13	517	
り ん ご	全 国			0	15	
	北海道	166	195	0	15	対策加入県 6 道県 補てん対象県 1 道県
	(注1)	156	140	—	—	
	青 森	236	235	—	—	
	山 形	211	195	—	—	
	長 野	297	275	—	—	
	(注2)	237	230	—	—	

資料：農林水産省果樹花き課調べ

注1：北海道は、上段が消費地市場、下段が地方市場のものを記載。

注2：長野県は、上段が8～10月、下段が11～2月の期間区分のものを記載。

注3：契約数量ベースで最大見込額を推定。

4 価格動向

(1) 16年産

① うんしゅうみかん

○ うんしゅうみかんの卸売価格は、9～10月の卸売数量が前年を大きく上回ったことに加え、台風、長雨の影響から極早生種の品質が低下し、産地間の格差が大きくなったこと等から、10月までは前年を下回る価格で推移した。

○ 11月以降は、台風、長雨の影響等から、果実全般の数量が少なかったこと、極早生種の切り上がりが早く、早生種への切り替えがスムーズに行われたこと、普通種の産地が計画的に市場出荷を行ったこと等から、前年を上回って推移し、3月までの卸売価格は、対前年比120%と堅調に推移した。

② りんご

○ りんごの卸売価格は、8月は卸売数量が前年を上回ったことから前年比88%となった。

○ 10月以降は、台風、長雨の影響等から、卸売数量が前年を大きく下回ったこと、中生種や晩生種のふじの品質が良く市場評価が高かったこと等から、前年を大幅に上回って推移し、4月までの卸売価格は、対前年比115%となった。

○ 露地みかんの卸売数量及び卸売価格の推移（京浜市場）

(単位: t, 円/kg, %)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
卸売数量	16年産	4,396	26,542	33,104	49,753	21,792	13,723	5,108	154,418
	15年産	3,982	24,586	31,844	55,099	24,079	16,475	4,859	160,924
	対前年比	110	108	104	90	91	83	105	96
卸売価格	16年産	202	171	203	213	224	227	260	208
	15年産	208	186	152	158	177	213	241	173
	対前年比	97	92	134	135	127	107	108	120

資料: 日園連調べ

○ りんごの卸売数量と卸売価格の推移（京浜市場）

(単位: t, 円/kg, %)

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	累計
卸売数量	16年産	3,376	8,115	10,250	10,984	8,004	7,047	7,282	7,835	6,401	4,934	74,228
	15年産	3,168	8,983	11,583	11,479	8,829	7,826	7,820	7,784	6,299	5,072	78,845
	対前年比	107	90	88	96	91	90	93	101	102	97	94
卸売価格	16年産	295	256	308	288	302	279	270	279	306	340	291
	15年産	334	244	265	218	233	238	251	264	273	286	253
	対前年比	88	105	116	132	130	117	108	106	112	119	115

資料: 日園連調べ

(2) 17年産

① うんしゅうみかん

○ うんしゅうみかんの卸売数量は、おもて年ではあるものの、6月以降の高温・少雨等により、極早生みかんが全体的に小玉になったことから、10月までの卸売数量は前年を下回って推移したが、その後、早生みかんの生育が順調で卸売数量が回復傾向となり、3月までの卸売数量は台風被害により数量の少なかった前年の107%となっている。

○ 一方、卸売価格は、極早生みかんの価格が低水準で推移し、早生みかんも同様の傾向となったことから、3月までの卸売価格は台風被害により価格が堅調だった前年の78%となっている。

価格低迷の要因としては、

- ・ 極早生みかんが小玉傾向で平均価格を押し下げたこと、また、極早生みかんの主産地で高温等により着色が悪い上、糖度の低い果実が発生したこと
- ・ 消費地が高温でかつ天候が悪く、消費者の購買行動が鈍ったこと
- ・ 生育遅れにより出回りが遅れたなし、ぶどう等の夏果実と競合したこと

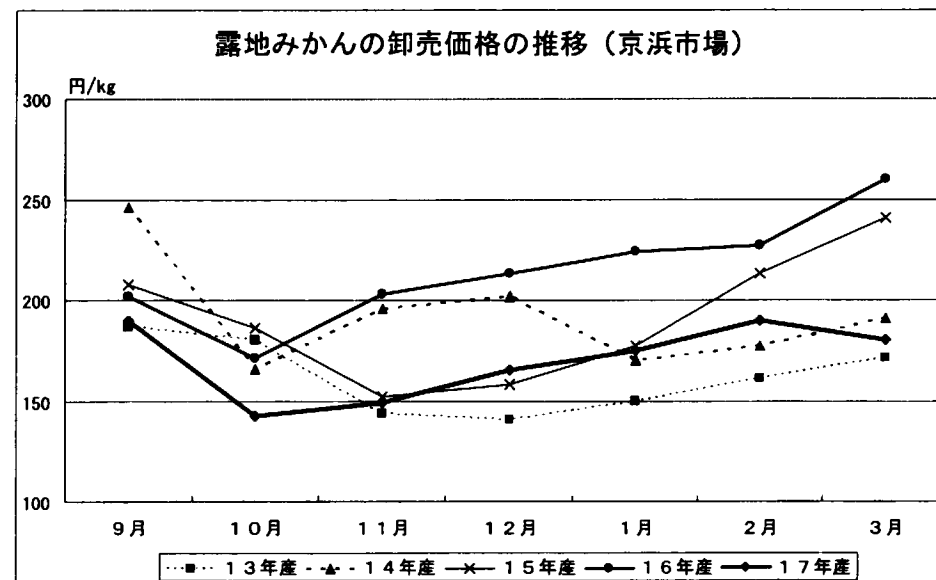
等が考えられる。

○ 露地みかんの卸売数量及び卸売価格の推移（京浜市場）

（単位：トン、円/kg、%）

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
卸売数量	17年産	4,127	25,671	35,836	53,220	22,918	16,808	7,319	165,899
	16年産	4,396	26,542	33,104	49,753	21,792	13,723	5,108	154,418
	対前年比	94	97	108	107	105	122	143	107
卸売価格	17年産	190	143	149	165	175	190	180	163
	16年産	202	171	203	213	224	227	260	208
	対前年比	94	83	73	77	78	84	69	78

資料：日園連調べ



② りんご

○ りんごの卸売数量は、融雪の遅れ、春先の低温による開花時期の遅れから収穫時期が遅れ、さらに、6月以降の高温・少雨等により果実が小玉になったが、4月までの卸売数量は台風被害により数量の少なかった前年の104%となっている。

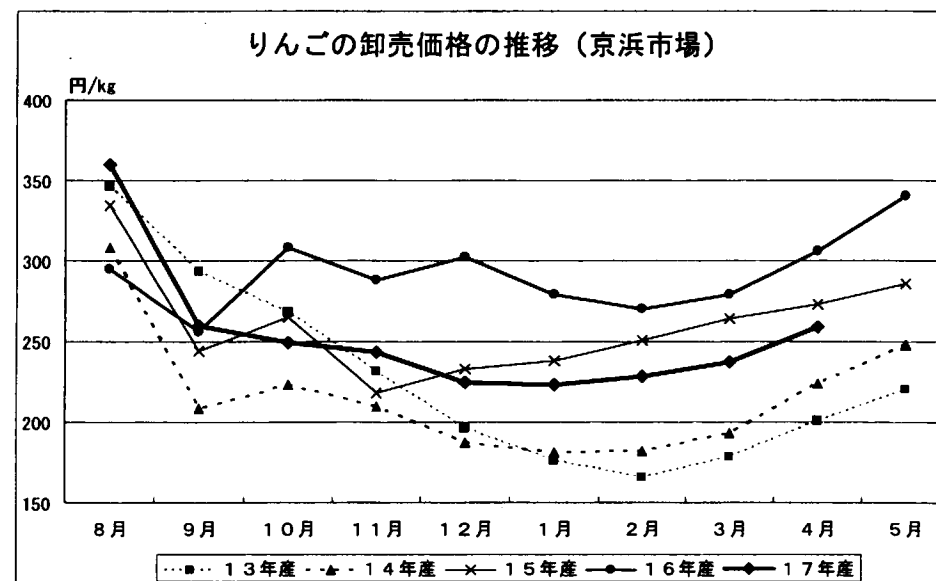
○ 卸売価格については、8月及び9月は卸売数量が前年を下回ったことから前年を上回って推移したが、10月以降は果実全般の安値傾向や夏果実との競合等により前年を下回って推移し、4月までの卸売価格は台風被害により価格が堅調だった前年の85%となっている。

○ りんごの卸売数量と卸売価格の推移（京浜市場）

(単位：トン、円/kg、%)

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	累計
卸売数量	17年産	2,670	7,790	10,227	11,339	9,290	7,716	8,206	8,197	6,807	72,242
	16年産	3,376	8,115	10,250	10,984	8,004	7,047	7,282	7,835	6,401	69,294
	対前年比	79	96	100	103	116	109	113	105	106	104
卸売価格	17年産	360	260	249	243	225	223	228	237	259	245
	16年産	295	256	308	288	302	279	270	279	306	287
	対前年比	122	102	81	84	75	80	84	85	85	85

資料：日園連調べ



5 18年産生育状況

(1) うんしゅうみかん

3月以降の気温が平年並みから低く推移したため、発芽期及び開花期は概ね平年並みからやや遅くなっている。また、うら
年であることから着花量は総じて少ないと見込まれている。

○うんしゅうみかん主産県の生育状況（5月1日現在 平年比）

県 名	発芽期	開花期	着花量
静岡県	平年並み	平年並み	並み
和歌山県	やや遅い	やや遅い	少ない
愛媛県	やや遅い	やや遅い	少ない
福岡県	やや遅い	やや遅い	やや少ない
佐賀県	平年並み	やや遅い	並み
長崎県	遅い	平年並み	並み
熊本県	平年並み	やや遅い	少ない
宮崎県	やや早い	平年並み	やや少ない

(2) りんご

冬の大雪、融雪の遅れにより発芽期及び開花期に遅れが見られるが、着花量は、並みからやや少ないと見込まれている。

○りんご（ふじ）主産県の生育状況（5月1日現在 平年比）

県 名	発芽期	開花期	着花量
青森県	やや遅い	遅い	並み～ やや少ない
岩手県	やや遅い	遅い	並み
秋田県	やや遅い	遅い	並み
山形県	やや遅い	やや遅い	やや少ない
福島県	やや早い	やや遅い	並み
長野県	平年並み	遅い	並み～ やや少ない